



本書は、英語によるCrédit Agricole S.A. 2013年度第2四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2013年8月6日 モンレージュ

2013年度第2四半期及び上半期業績結果

第1四半期に引き続き堅調な業績結果を確認

- 堅調な事業実績
- コントロール下にあるリスク関連費用
- 着実に進展する費用削減プログラム

クレディ・アグリコル・グループ *

2013年度第2四半期純利益グループ帰属分: 13億8,500万ユーロ

(2012年度第2四半期: 8億800万ユーロ)

2013年度上半期純利益グループ帰属分: 24億1,000万ユーロ

(2012年度上半期: 16億7,100万ユーロ)

バーゼル3完全適用後CET1レシオ : 10.0%

2013年6月30日現在利用可能現金準備金: 2,330億ユーロ

* クレディ・アグリコルS.A. と地域銀行の100% を含みます。2012年は、IFRS第5号に従ったエンポリキ、シュブルー、CLSA の再分類とコンプレックス・デリバティブの一部の評価変更が含まれています。

クレディ・アグリコル S.A.**

2013年度第2四半期純利益グループ帰属分: 6億9,600万ユーロ

(2012年度第2四半期: 5,600万ユーロ)

2013年度上半期純利益グループ帰属分: 11億6,500万ユーロ

(2012年度上半期: 3億6,700万ユーロ)

事業部門収益: 2012年度第2四半期比+0.6%

営業費用: 2012年度第2四半期比-2.9%

リスク関連費用: 2012年度第2四半期比-13.9%

ティア1レシオ: 10.0%; コア・ティア1レシオ: 8.6%

** 2012年は、IFRS第5号に従ったエンポリキ、シュブルー、CLSAの再分類とコンプレックス・デリバティブの一部の評価変更が含まれています。

クレディ・アグリコル・グループ

クレディ・アグリコル・グループの純利益グループ帰属分は、2013 年度第 2 四半期が 13 億 8,500 万ユーロ、2013 年度上半期が 24 億 1,000 万ユーロとなりました。2012 年度第 1 四半期比は 44.2%の増加となっています。尚、2012 年度の数字にはインテサ・サンパオロの持分減損 4 億 2,700 万ユーロが含まれています。

信用リスクに関連の社債とローン・ヘッジの再評価分をとり除いた場合、2013 年度第 2 四半期は 39.9%の増加、上半期は 41.4%の増加となり、これらは良好な業績結果を反映しています。この改善は主に 2012 年度第 2 四半期に計上したギリシャの営業損失の影響がなくなったことによるものです。

当グループは個人と法人顧客両方のニーズに応え、リテール・バンキングが堅調な事業水準を維持しました。当グループのフランス国内の支店ネットワークによる新規貸付の伸びによって、貸付残高は 2012 年 6 月から 2013 年 6 月の間に 0.4%増加しました。一方で同期間の GDP(国民総生産)は 0.2%減少しています。

地域銀行は、貸付、預金共に更に増加しました。貸付は特に住宅ローンが 1 年間で 1.7%、オン・バランスシートの要求払預金は 2.1%、そして生命保険の管理資産は 3.5%、それぞれ増加しました。その結果、預貸比率は改善し、2013 年 6 月末現在で 126%となりました。2013 年度第 2 四半期の地域銀行の純利益グループ帰属分は 9 億 4,100 万ユーロ(前年同期比 2.6%増)、2013 年度上半期は 18 億 4,100 万ユーロ(前年同期比 0.4%増)となりました。

クレディ・アグリコル S.A.の会長ジャン・マリ・サンデルは、「地域銀行と LCL による貸付残高は 4,840 億ユーロを上回り、クレディ・アグリコル・グループは融資においてフランス国内のトップの地位を占めています。またフランス経済の回復のために重要な役割を果たしています。」と述べました。

またクレディ・アグリコル S.A.の CEO ジャン・ポール・シフレは次のように述べました。「第 2 四半期の業績結果から、2013 年度第 1 四半期に見られた傾向を確認することができました。当グループはプロフィールを変えてきており、現在の経済環境と新たな金融規制に適応しています。私達は既に発表している通りの道筋を進んでおり、中核事業と財務の健全性を強化しつつ、費用削減の努力を継続しています。」

ソルベンシーに関しては、2013 年 6 月 30 日現在のコア・ティア 1 レシオは、2013 年 3 月 31 日時点比 30 ベーシス・ポイント上昇し、11.3%となりました。

2013 年 6 月 30 日現在の当グループのバーゼル 3 完全適用後の CET1 レシオは既に 10.0%に達しています。

クレディ・アグリコル・グループの 2013 年 6 月 30 日現在のレバレッジ・レシオは 3.5%¹でした。クレディ・アグリコル・グループは2013年度第2四半期中も引き続き流動性ポジションを強化しました。2013年6月30日現在の当グループのバランスシート上の現金(銀行部門)は1兆450億ユーロに達し

¹ バーゼル3完全適用後コア・ティア1レシオと既存のティア1 規制適用除外(grand-fathered); デリバティブ、レボ、規制上の評価価額。

ました。2013年度第2四半期の長期の運用資金に対する長期の資金調達の超過額は2013年度第2四半期末現在510億ユーロでした。流動性準備金は2,330億ユーロで、短期の市場調達額を十分にカバーしています(160%)。またクレディ・アグリコルS.A.の中・長期債発行プログラムの年間設定額は120億ユーロであり、2013年7月末現在でそのうちの84%に相当する101億ユーロの発行を実施しています。さらに当グループの支店ネットワークと専門金融子会社は2013年度上半期に62億ユーロの中・長期資金調達を行いました。

クレディ・アグリコルS.A.

2013年度第2四半期と上半期の業績承認のために、2013年8月5日、ジャン・マリ・サンデルを議長とするクレディ・アグリコルS.A.の取締役会が行われました。

2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、2012年度第2四半期の5,600万ユーロに対し、6億9,600万ユーロとなりました。当グループの信用リスクに関連する既存社債とローン・ヘッジの再評価を調整後、ギリシャのリテール・バンキングの子会社の営業損失によるマイナスの影響を受けた2012年度第2四半期の2億9,300万ユーロに対し、純利益は6億7,300万ユーロとなりました。この業績結果は、厳しい経営環境の中での堅調な事業展開、費用削減に向けての努力及びリスク関連費用が抑えられたことによるものです。

リテール・バンキングと資産運用部門は業績の伸びを記録し、景気低迷の中での当部門の収益性の回復力を確認しました。フランス国内のリテール・バンキングでは、オン・バランスシートの預金とローン残高が2012年6月末時点比でそれぞれ5.5%、0.3%増となりました。2013年度上半期の資産管理部門の管理資産は合計で100億ユーロ増加しました(市場や為替のプラスの影響額のおよそ30億ユーロを含む)。

費用削減プログラムは目に見える成果を生みました。2013年度第2四半期には1億4,600万ユーロの費用削減を達成しました。これは2012年度第2四半期の費用の4.9%に相当します。新規課税額と各種社会費用(当期中は6,000万ユーロ)を含めても費用は2.9%減少しました。費用削減は、雇用者数削減による人件費の低下(約5,000万ユーロ)やMUSTプログラムの実施により実行されました。同プログラムは2012年半ばに開始されて以来、既に2億4,500万ユーロの削減が達成されており、2013年末までに合計3億2,000万ユーロを削減するという目標を前倒しとするペースで進んでいます。

2013年度第2四半期の当グループのリスク関連費用は引き続き全部門で抑えられ、残高の56ベシス・ポイントとなりました。フランス国内のリテール・バンキングでは、LCLのリスク関連費用が残高の29ベシス・ポイントとなり、地域銀行と同様の結果となりました。これは2012年度第2四半期とほぼ同様の水準であり、ここ4年間の事業年度の平均リスク関連費用よりも低い水準となっています。国際リテール・バンキングでは、同じ連結範囲でのリスク関連費用は2012年度第2四半期の水準まで改善しました。消費者金融部門では、リスク関連費用は1年前より減少しており、イタリアの子会社アゴス・デュカト(Agos Ducato)や当グループの他の消費者金融会社でも減少しました。ファイナンス事業では、リスク関連費用はここ数四半期間に亘って極めて低い水準を維持してきました。

2013年上半期の純利益グループ帰属分は11億6,500万ユーロでした。信用リスクに関連する既存社

債ならびにローン・ヘッジの再評価分を調整後の純利益グループ帰属分は、2012年上半期6億1,500万ユーロに対し、13億6,100万ユーロとなりました。

2013年度第2四半期に、欧州ではトップクラスの独立系証券会社であるケプラー・シュブルー（Kepler Cheuvreux）の創設を完了しました。クレディ・アグリコルCIBは15.1%を出資しています。また7月31日に、当グループはCLSAの持分の残り80.1%をCITICに売却する契約を交わしました。この契約は台湾での事業活動を除くCLSAの全ての事業をカバーしています。

社会的・環境的責任： ヴィジェオ（Vigeo）のエクストラ・フィナンシャル・インデックスに加わったクレディ・アグリコルS.A.

2013年6月、クレディ・アグリコルS.A.はヴィジェオのエクストラ・フィナンシャル・インデックスに加えられました。ヴィジェオ指標（Vigeo indices）¹、ユーロネクスト・ヴィジェオ・フランス20、ユーロネクスト・ヴィジェオ・ユーロゾーン120、ユーロネクスト・ヴィジェオ・ヨーロッパ120、ユーロネクスト・ヴィジェオ・ワールド120は社会的・環境的責任において最も高く評価される上場企業から構成されています。それらの企業は6つの分野で評価を受けます。6つの分野とは、環境、顧客関係、人権、人的資源、ガバナンス、良き企業市民です。ヴィジェオの社会的・環境的責任の指標に加えられたことは、当グループが各分野で大きな進歩を遂げたことを意味しており、各々の分野ならびに事業活動全般に亘って企業の社会的責任に対する取り組みが強化されたことを明らかにしています。

またクレディ・アグリコルS.A.はForum Ethibel Excellence Investment Registerにも選定されました。Forum Ethibelは社会的責任投資の推進をはかり、企業、政府、職種別労働組合、NGO、投資家の間での対話を促進することを目的とするベルギーの団体です。Excellence Registerは450の優良企業で構成されています。

決算スケジュール

2013年11月7日 2013年度第3四半期決算発表

¹ 欧州のCSRリサーチでは有数のエクストラ・フィナンシャル格付会社ヴィジェオのリサーチに基づきNYSEユーロネクストが創設した指標。

クレディ・アグリコルS.A.連結決算

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2*	H1-13	Change H1/H1*
Revenues	4,386	(0.9%)	8,239	(14.6%)
Operating expenses	(2,900)	(2.9%)	(5,779)	(3.2%)
Gross operating income	1,486	+3.2%	2,460	(33.1%)
Cost of risk	(680)	(13.9%)	(1,445)	(16.6%)
Operating income	806	+23.9%	1,015	(47.8%)
Equity affiliates	239	+5.9%	586	(8.4%)
Net income on other assets	2	(97.3%)	22	(39.3%)
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	1,047	+14.2%	1,623	(38.0%)
Tax	(256)	(35.1%)	(282)	(67.4%)
Net income on discontinued operations	(4)	(99.2%)	2	nm
Net income	787	x6.7	1,343	x3.0
Non-controlling interests	91	+46.6%	178	x2.4
Net income Group share	696	x12.6	1,165	x3.2

* 2012年度の業績結果はIFRS第5号に従ったエンボリキ・シュブルーとCLSAの再分類とコンプレックス・デリバティブの一部の評価変更が含まれています。

2013年度第2四半期と上半期の収益はそれぞれ44億ユーロ、82億ユーロに達しました。2012年度第2四半期の収益に含まれる特殊要因が-2,800万ユーロだったのに対し、2013年度第2四半期の収益に含まれる特殊要因は合計+3,200万ユーロでした。この特殊要因は次の項目から構成されています。

- CA-CIBの既存社債及びUL保険契約（Unit Link）に関連する負債、CIBのDVA（Debt Valuation Adjustment；債務評価調整）とローン・ヘッジが2012年度第2四半期には+3億9,900万ユーロだったのに対し、2013年度第2四半期は+3,200万ユーロ。
- AFS（Available For Sale Securities）持分の長期に亘る減価に伴う2012年のインテサ・サンパオロの持分減損-4億2,700万ユーロ。

営業費用は、費用削減プログラムの導入を反映して、2012年度第1四半期比2.9%減の29億ユーロとなりました。新規課税と社会費用が前期比6,000万ユーロ増加するなかで、この費用の減少は極めて注目すべきことといえます。2013年度第2四半期中新規課税額を除いた費用削減額は、費用の4.9%に相当する1億4,600万ユーロ¹でした。これは、雇用者数の減少による人件費約5,000万ユーロ²の削減

¹ 為替による影響額2,100万ユーロを含む。

² 2012年度第2四半期に認識されたカリバルマの自主的な早期退職による5,400万ユーロの影響額を除く。

を反映しています。2013年度第2四半期の人件費(フルタイム従業員)は前年同期比で9.5%減少しました。この減少はエンポリキとシュブルーの売却、CA-CIBとCACFの事業適応計画、カリパルマの業務プロセスや組織の見直しの一環としての自主的な早期退職を反映しています。クレディ・アグリコルS.A.内でのMUST費用削減プログラムによる影響額はほぼ6,000万ユーロで、IT関連で大幅な費用削減を達成しました。全体では、2013年度第2四半期のコスト比率は前年同期比1.4%改善しました。

リスク関連費用は全体的に抑えられて、2013年度第2四半期は前年同期比13.9%減の6億8,000万ユーロとなりました。これは年率では残高の56ベース・ポイントであり、前年同期の64ベース・ポイント(アゴス・デュカトの高めの引当金を含む)と比べて減少しています。2013年度第2四半期の引当金は2億2,400万ユーロであり、2013年度第1四半期の2億3,200万ユーロを下回っています。リテール・バンキングでは、リスク関連費用の傾向はLCL(2012年度第2四半期の28ベース・ポイントに対し2013年同期は29ベース・ポイント)とカリパルマ(2013年度第2四半期は前年同期比では9.4%増加しましたが、2013年度第1四半期比では横ばい)¹では予想通りとなりました。法人営業及び投資銀行のリスク関連費用は引き続き抑えられました。2013年度第2四半期のファイナンス事業のリスク関連費用は、2012年度第2四半期と同様の水準となり、29ベース・ポイントと安定しました。

不良債権残高(顧客とのリース・ファイナンス取引を除く)は167億ユーロに達し、2012年度第2四半期が顧客及びインターバンクのローン残高合計の3.1%だったのに対し、3.8%に相当しました(エンポリキ、シュブルー、CLSAを除く)。2012年6月30日時点では、不良債権が特定引当金により57.0%カバーされていたのに対し、当期は57.5%でした。一般引当金を含めると、2013年度第2四半期の不良債権引当率は74.4%でした。

2013年度第2四半期の**関連会社の収益**は前年同期比5.9%増の2億3,900万ユーロに達しました。地域銀行による寄与は2億5,600万ユーロで、2012年度第2四半期のSACAMインターナショナルの持分の減損6,700万ユーロを12ヶ月ベースで調整後した場合6.7%の増加となりました。

税引前利益は、2012年度第2四半期の9億1,900万ユーロに対し、10億4,700万ユーロでした。

全体では2013年度第2四半期のクレディ・アグリコルS.A.の**純利益グループ帰属分**は6億9,600万ユーロでした。既存社債の再評価、DVAとローン・ヘッジ(CPM)を修正後の純利益は、ギリシャの営業損失-3億7,000万ユーロの計上を含む2012年度第1四半期が2億9,300万ユーロだったのに対し²、6億7,300万ユーロとなりました。

ソルベンシー

2013年6月30日現在のコア・ティア1レシオは、2013年3月31日時点の8.5%に対し8.6%となり、当期中に10ベース・ポイント改善しました。ティア1レシオは10.0%でしたが、グローバル・レシオは2013年3月末時点の15.1%から2013年6月末現在15.0%になりました。

¹ イタリア中央銀行の監査により必要とされた追加引当金3,900万ユーロ(2013年度第1四半期にカリパルマの財務諸表で認識された)を修正後。

² 発行スプレッド、DVA、CPM、インテサ及びSACAMインターナショナルの持分減損を除く。

リスク・ウェイト資産は、2013年3月31日時点と同様の3,263億ユーロでした。

参考までに2014年1月1日に適用開始となるCRD4(パーゼル3)に備えて、2013年1月1日以来金融コングロマリットに関する暫定的規制が適用されています。算定方法は以下の通りです。分母には保険会社の持分価値ならびに関連するハイブリッド債(以前は資本項目から除外)の価額370%分をウェイト付け、分子にはティア1キャピタルから余剰金を控除しています。

流動性

2013年6月末のクレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金は、2013年3月末時点の1兆480億ユーロに対し、1兆450億ユーロでした。

当グループが市場のカウンター・パーティーから調達した369日以内の償還債券の残高に相当する短期債務(レポとリバース・レポの相殺分ならびに中央銀行によるリファイナンス分を除く)は、2013年3月31日時点で1,390億ユーロだったのに対し、2013年6月30日現在は1,460億ユーロとなりました。短期資金調達額は第1四半期の1,780億ユーロと横ばいでした。一方バランスシート上の流動資産は2,290億ユーロに達しました。

2013年6月30日現在の長期の利用可能な資金に対する長期の資金調達の超過額は510億ユーロでした。また長期の資金調達源は8,670億ユーロに達しました。それらは資本(及び類似項目)、顧客関連資金、長期の市場資金からなります。有形・無形固定資産と顧客関連資産に関連した資金調達必要額は2013年6月30日現在、合計8,160億ユーロとなりました。

2013年度6月30日現在の流動性準備金(ヘアカット後)は2,330億ユーロに達しました。同準備金は、短期の市場債務を十分にカバーします(160%)。利用可能な流動性準備金は、中央銀行でリファイナンス可能な資産が520億ユーロ(ECBヘアカット後)、中央銀行への預金(現金と法定準備金を除く)が580億ユーロ、証券ポートフォリオ(ヘアカット後)が1,230億ユーロでした。この証券ポートフォリオは、中央銀行でリファイナンス可能な流動性証券が870億ユーロ、それ以外の流動性証券が180億ユーロ、証券化商品ならびに自行債権証券化商品のうち中央銀行保有可能な180億ユーロからなっています。

中・長期の資金調達に関しては、クレディ・アグリコルS.A.は2013年1月1日から7月31日の間に101億ユーロ調達し、2013年度の中・長期債発行計画の設定額の84%を達成しました。支店ネットワークと専門金融子会社も2013年度上半期中に62億ユーロを調達しました。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2	H1-13	Change H1/H1
Net income accounted for under the equity method (at about 25%)*	235	+1.7%	449	+0.5%
Change in share of reserves	21	x2.3	150	(2.7%)
Share of income from equity affiliates*	256	+6.7%	599	(0.3%)

* 2012年度第2四半期はSACAMインターナショナル持分の減損費用-2億6,800万ユーロの変動、2013年度第1四半期は収益の-4,500万ユーロの変動を調整。

地域銀行は、市場の景気低迷が長期化しているにもかかわらず、引き続き事業活動を発展させました。

2013年6月末現在の顧客預金は、オン・バランスシート預金3,370億ユーロ（前年同期比4.9%増）を含め前年同期比4.0%増の5,770億ユーロに達しました。オン・バランスシート預金の伸びは、主に非課税貯蓄性預金（Livrets；2012年6月から2013年6月の間に13.1%増加）、要求払預金（2.1%増）、定期預金口座（3.3%増）などによるものです。住宅購入貯蓄プランの預金だけが過去12ヶ月間で減少しましたが、減少率は0.7%に留まっています。オフ・バランスシート預金は、顧客の生命保険（2012年6月から2013年6月の間に3.5%増加）と証券（同5.7%増加）に対する関心が新たに高まったことから2012年6月から2013年6月の間に2.7%増加しました。

2013年6月30日現在のローン残高は3,950億ユーロとなり、1年前とほぼ同様の水準でした（0.3%増）。住宅ローンは前年同期比1.7%増加し、その一方で消費者信用残高と中小企業及びスモール・ビジネス向けのローン残高は12ヶ月間でそれぞれ6.3%、3.3%減少しました。

その結果、預貸比率は2012年6月末時点の127%から2013年6月末現在の126%へと更に改善しました。

2013年度第2四半期の地域銀行の収益（グループ内取引修正後）は、2012年度第2四半期比3.4%増のほぼ36億ユーロに達しました（2012年度第2四半期のSACAMインターナショナルの持分減損-2億6,800万ユーロを調整後）。同収益は2012年度上半期と比較した場合、2013年度上半期には3.9%増加しました。この増加は顧客預金やリファイナンスの費用の減少によるものです。更に、2013年度第2四半期の手数料収入は前年同期比2.0%増加しました。これは保険商品（前年同期比で4.6%増加）や口座管理ならびに決済業務（同15.9%増）の好調なパフォーマンスを反映しています。

2013年度第2四半期の営業費用は引き続き19億ユーロ以下に抑えられましたが、主に新規課税と社会費用のために、2012年度第2四半期から2013年度第2四半期の間に僅かに0.9%増加しましたが、費用収入比率は同期間で5.9ポイント改善し、53.1%となりました。

その結果、営業利益は2012年度第2四半期から2013年度第2四半期の間に6.4%増加し、14億ユーロ

口に達しました。

2013年第2四半期のリスク関連費用は-2億9,300万ユーロでした。これは2012年6月時点の22ベース・ポイント、2013年度第1四半期の40ベース・ポイントに対し、ローン残高の29ベース・ポイントに相当しました。第2四半期、上半期共にリスク関連費用の増加は限定的な数のローンに集中しています。2013年6月30日現在の一般引当金を含めた引当率は、貸出不良債権の105.9%となりました。ローン残高全体の不良債権比率は2.5%で、2012年6月末比で10ベース・ポイント上昇しています。

その結果、2013年度上半期の地域銀行のクレディ・アグリコルS.A.の純利益グループ帰属分に対する寄与は、第2四半期の2億5,600万ユーロを含めて5億9,900万ユーロとなりました。

1.2. LCL

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2	H1-13	Change H1/H1
Revenues	960	(4.1%)	1,935	(3.9%)
Operating expenses	(632)	+0.3%	(1,245)	(0.1%)
Gross operating income	328	(11.5%)	690	(10.0%)
Cost of risk	(69)	+4.5%	(158)	+9.7%
Operating income	259	(15.0%)	532	(14.6%)
Net income on other assets	1	(75.0%)	6	-
Income before tax	260	(15.2%)	538	(13.6%)
Tax	(90)	(15.6%)	(187)	(10.4%)
Net income	170	(15.0%)	351	(15.2%)
Non-controlling interests	8	(15.3%)	17	(15.2%)
Net income Group share	162	(15.0%)	334	(15.2%)

LCLは、法人とリテール顧客のプロジェクトのファイナンスを支援することによって引き続きフランス経済を支えています。2013年度第2四半期は、預金残高が増加し、貸出の伸びが抑えられており、ここ数四半期間と同様な傾向がみられました。

2013年6月30日現在のローン残高は前年同期比1.3%増の889億ユーロとなりました。この伸びは住宅ローンとスモール・ビジネス及び法人顧客のローンに牽引されたもので、住宅ローン残高は2012年6月30日比2.0%増の553億ユーロ、スモール・ビジネス及び法人顧客のローン残高は1.2%増の270億ユーロとなりました。

堅調な事業展開に牽引され顧客預かり資産は前年同期比6.1%増の1,608億ユーロとなりました。オン・バランスシート預金の残高は前年同期比9.1%増加しました。これは非課税貯蓄性預金の15.2%の伸びと定期預金口座の17.6%の伸びによるものです。オフ・バランスシートの預金残高は主に生命保険の新規預金の伸びにより前年同期比3.0%増加しました(当期中は+7.0%増加)。

それに伴い、預貸比率は前年同期比4%改善し、2012年6月末の116%から2013年6月末には112%へと低下しました(2013年3月末時点は115%)。

2013年度第2四半期の収益は、2012年度第2四半期比4.1%減の9億6,000万ユーロとなりました。但

し、住宅購入貯蓄プランの引当金を調整後は0.1%増となります。収益は、利ざやが堅調であったことと、当期中の手数料収入が安定していたことから良好な結果となりました。

新規課税と社会費用の影響を考慮に入れた場合、営業費用は引き続き抑えられ、前年同期比0.3%増に留まりました。住宅購入貯蓄プランの影響を調整後、費用収入比率は2012年度第2四半期と同水準となりました。

2013年度第2四半期のリスク関連費用は前年同期比4.5%増加しました。ローン残高に対するリスク関連費用の比率は2012年度第2四半期と同水準でした。ローン残高に対する不良債権は2012年6月とほぼ横ばいの2.4%でした。引当金比率(一般積立金を含む)は、2012年6月30日時点の77.4%に対し74.5%でした。

全体では、2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は2012年度第2四半期比1.5%¹減の1億6,200万ユーロでした。2013年度上半期の純利益グループ帰属分は3億3,400万ユーロに達しました。

¹ 住宅購入貯蓄プランの引当金調整後。

2. 国際リテール・バンキング

2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、ギリシャ関連のマイナスの寄与3億5,600万ユーロを含む2012年度第2四半期の2億5,700万ユーロの損失に対し、2,500万ユーロとなりました。2013年度上半期は、ギリシャ関連のマイナスの寄与12億4,400万ユーロを含む2012年度上半期の10億8,600万ユーロの損失に対し5,300万ユーロとなりました（2013年度第1四半期の決算報告書に記載されている通り、カリパルマの2012年度決算で計上された7,400万ユーロの引当金を調整後）。

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2*	H1-13	Change H1/H1*
Revenues	612	(5.9%)	1,207	(3.0%)
Operating expenses	(378)	(15.5%)	(764)	(9.0%)
Gross operating income	234	+15.4%	443	+9.5%
Cost of risk	(121)	(3.9%)	(318)	+30.3%
Operating income	113	+47.6%	125	(22.4%)
Equity affiliates	(41)	nm	(41)	nm
Net income on other assets	-	nm	17	nm
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Income before tax	72	(30.8%)	101	(52.8%)
Tax	(26)	nm	(27)	(6.2%)
Net income (after tax) from discontinued activities	3	nm	6	nm
Net income	49	nm	80	nm
Non-controlling interests	24	x3.3	27	nm
Net income Group share	25	nm	53	nm

* 2002年度はIFRS第5号に従って、エンポリキの再分類を修正

イタリアでは2013年度第2四半期にカリパルマが良好な業績を達成しました。2013年度第2四半期のオン・バランスシートの預金残高は引き続き増加し、主にスモール・ビジネスと法人の顧客預金に牽引されて、前年同期比3.5%増の361億ユーロに達しました。同時に、カリパルマは商品の多様化の方針を継続しました。これにより生命保険と投資信託が堅調な収益の伸びを示しました。2013年度第2四半期の収益は、前年同期比41.4%増の11億ユーロに達しました。需要の低迷が長期化しているために、ローン総残高は前年同期比1.8%減の330億ユーロに減少しましたが、その一方で住宅ローンは2013年度6月末現在前年同期比3.8%増の128億ユーロとなりました。2013年6月30日現在の顧客流動性剰余金は31億ユーロに達し、イタリアにおける当グループのその他の事業の資金調達に寄与しています。

クレディ・アグリコルS.A.に対するカリパルマの寄与

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2	H1-13 ¹	Change H1/H1
Revenues	393	(8.3%)	780	(5.9%)
Operating expenses	(243)	(21.4%)	(487)	(13.1%)
Cost of risk	(98)	+9.4%	(203)	+24.9%
Net income	43	(24.7%)	80	(19.6%)
Net income Group share	31	(25.1%)	59	(17.5%)

カリパルマも堅調な事業展開となり、前期と比較して業績が伸びました。収益は、2012年度第2四半期比8.3%減の3億9,300万ユーロでしたが、2013年度第1四半期比では安定しました(+1.8%)。2013年度第2四半期の費用は大幅に減少し、早期退職プラン(2012年度第2四半期に5,400万ユーロを計上)の影響額を調整後、前年同期比4.3減少しました。

リスク関連費用は引き続き経済情勢の悪化の影響を受け、2013年度第2四半期は前年同期比9.4%増加しましたが、2013年度第1四半期比では低い水準¹となりました。2013年6月30日現在の不良債権比率は9.6%で、引当率は44.6%(一般引当金を含む)となりました。

全体では、2013年度第2四半期純利益グループ帰属分は3,100万ユーロで、2013年上半期は5,900万ユーロ¹でした。カリパルマ・グループからの寄与はCalitを含めて、2013年度第2四半期が4,700万ユーロ、2013年度上半期が8,500万ユーロとなりました。

イタリアを除いて、当グループの他の子会社はバランスのとれた預貸比率を維持しました。地理的な収益の内訳は、カリパルマを除く欧州の子会社からの寄与が19%、アフリカと中近東からの寄与が17%となっています。2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分への寄与は合計で+3,700万ユーロ²でした。

¹ 2013年度第1四半期の決算報告に記載の通り、カリパルマの2012年度決算で計上された引当金を修正後。

² BESからの寄与を除く。

3. 資産管理(SAVINGS MANAGEMENT)

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、資産運用サービスが含まれます。

2013年6月30日現在、当部門の資産運用額は2012年12月31日時点比104億ユーロ増の1兆1,070億ユーロ¹となりました。この増加は当期中の極めてポジティブな市場効果に加えて、堅調な事業展開によるものです。マーケット、会計範囲、通貨による合計プラス27億ユーロの影響を除いた場合、この増加は資産運用部門が45億ユーロ、生命保険部門が32億ユーロの増加に牽引されました。

当部門の2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は4億1,000万ユーロで、2012年度第2四半期比0.4%減少しました。また上半期は8億1,300万ユーロに達しました。

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2	H1-13	Change H1/H1
Revenues	1,276	+5.0%	2,551	(2.0%)
Operating expenses	(628)	+3.4%	(1,237)	+3.6%
Gross operating income	648	+6.5%	1,314	(6.6%)
Cost of risk	(2)	(38.6%)	(3)	(94.0%)
Operating income	646	+6.8%	1,311	(3.1%)
Equity affiliates	4	+32.4%	10	x2.1
Net income on other assets	-	(100.0%)	-	(100.0%)
Income before tax	650	+2.3%	1,321	(4.6%)
Tax	(199)	+5.9%	(427)	(0.3%)
Net income	451	+0.8%	894	(6.5%)
Non-controlling interests	41	+14.3%	81	(9.7%)
Net income Group share	410	(0.4%)	813	(6.2%)

資産運用部門では、アムンディが引き続き海外での事業を発展させ、商品の幅を拡大しました。現在米ドル債券運用に特化する米国の会社スミス・ブリーデンの買収が進められており、英国、イタリア、スウェーデンでも販売力を強化しています。

アムンディは上半期に堅調な事業展開を見せました。アジアのジョイント・ベンチャー100%を含めて、2013年6月30日現在の運用資産は7,460億ユーロに達しました(2012年12月31日時点比0.9%増)。これは上半期に長期資産、特に債券、分散投資型資産と不動産などに牽引された45億ユーロの新規資金流入があったことが主な要因です。その一方で、6月は企業、法人により年金、配当が支払われる時期であり、資産運用部門はマネー・マーケット商品からの季節的資金流出によるマイナスの影響を受けました。上半期は、法人顧客セグメント(+87億ユーロ)、海外のネットワークセグメント(+22億ユーロ)、従業員積立セグメント(+17億ユーロ)に牽引される流入が続きました。上半期の平均残高は前年同期比9.2%増の7,570億ユーロに達しました。更に、マーケットと通貨の影響により、同期間中に20億ユーロのプラスの寄与がありました。

こうした業績結果は堅調な事業展開を反映しており、また金融市場が前年度より改善していることを反映しています。2012年度第1四半期中に売却されたハミルトン・レーンの税引前売却益6,000万ユーロ

¹ アジアの資産運用のジョイント・ベンチャー100%を含む。

口を修正後、2013年度上半期のアムンディの純利益グループ帰属分は、2012年度上半期比12.1%増の1億6,000万ユーロでした。2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は2012年度第2四半期比8.3%増の8,100万ユーロでした。一方、費用は同期間では安定しました(+0.5%)。2013年度第2四半期のコスト比率は54.8%で、前年同期比4.2%改善しました。

資産運用サービスでは、CACEISが費用の抑制とダイナミックなマーケティングを継続して展開しました。その結果、預かり資産は前年同期比14.0%増の1兆2,640億ユーロに達しました。カストディー資産は預金供託公庫(Caisse des Dépôts)の解約により同期間では減少しましたが、減少率は子会社の良好な事業展開によって8.6%に留まりました。

2013年度第2四半期の当セグメントの収益は利ざやの低下にもかかわらず前年同期比2.7%の減少に留まりました。費用は抑えられて、同期間で前年同期比2.1%低下しました。

2013年第2四半期の純利益グループ帰属分は前年同期比5.5%減の3,600万ユーロ、同上半期は7,000万ユーロに達しました。

プライベート・バンキングは、2013年度上半期は堅調な事業展開を見せました。2013年6月30日現在の運用資産は1,317億ユーロで、為替によるマイナスの影響によって2012年12月31日時点比2.5%減少しました。

フランス国内では、預り資産は2012年12月31日時点比僅かに0.7%増加し、608億ユーロとなりました。一方海外では、1.3%減の709億ユーロとなりました。

2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、証券ビジネスの収益増加により前年同期比40.5%増の3,300万ユーロとなりました。2013年度上半期の純利益グループ帰属分は6,900万ユーロに達しました。

保険部門では、2013年度上半期の保険料収入が60億ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2	H1-13	Change H1/H1
Revenues	517	+4.5%	1,058	(1.1%)
Operating expenses	(146)	+12.9%	(288)	+12.4%
Gross operating income	371	+1.5%	770	(5.3%)
Cost of risk	-	nm	-	nm
Net income on other assets	-	nm	-	nm
Tax	(110)	(1.7%)	(254)	+5.0%
Net income	261	(7.3%)	516	(5.7%)
Net income Group share	260	(7.3%)	514	(5.7%)

生命保険では、フランス国内、海外共に年初から目覚ましい業績を達成し、第2四半期も同様な傾向を確認することができました。2013年度第2四半期のフランス国内の保険料収入は、マーケットの平均増加率¹に連動する形で前年同期比12.4%増の42億ユーロに達しました。海外での同収入は、同期間に36.4%²増加しました。同様に生命保険の管理資産も前年同期比4.9%増の2,292億ユーロに達しまし

¹ 出典:FFSA(2013年6月現在の数値)

² 2012年度の数値は2012年度第2四半期にBESIに売却されたBES Vidaを修正後。

た。ユーロ建て資産は前年同期比5.1%増の1,883億ユーロに達しました。一方、ユニット・リンク型の口座残高は同期間で4.3%増の409億ユーロに達しました。これは管理資産全体の17.9%に相当します。新規流入(純額)は2013年度上半期に、フランス国内の25億ユーロを含む32億ユーロに達しました。

フランスの損害保険では、引き続き良好な事業展開となりました。2013年度第2四半期の保険料収入は2012年度第2四半期比7.3%増加し、同期間のマーケット平均増加率の2.5%¹を上回りました。2013年上半期の損害保険の保険料請求に対する支払い件数の割合(全期間、再保険後)は引き続き抑えられ、2012年度上半期の70.7%に対して70.6%となりました。

2013年度第2四半期の団体信用保険の保険料収入は、消費者金融ビジネスの低迷により2012年度第2四半期の2億5,600万ユーロから2億4,000万ユーロに減少しました。

2012年度第2四半期のギリシャのPSI(民間部門の債務免除)で生じた損失による税額計算上の一時的な影響分(税控除による恩恵を受け、1,300万ユーロを削減)を修正後、2013年度第2四半期の営業費用は新規課税と社会費用の300万ユーロを含め、前年同期比2.5%増加しました。2013年度第2四半期と上半期のコスト比率はそれぞれ28.2%、27.2%となりました。

2013年度第2四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、2億6,000万ユーロでした。これにはバーゼル3による規制の下で当グループの資本構造を最適化するための取引に伴う追加ファイナンス費用が含まれています。第2四半期ではこの取引に関連する費用は、収益に2,500万ユーロのマイナスの影響が、純利益グループ帰属分には1,800万ユーロのマイナスの影響が認識されました。これらの追加費用にもかかわらず、2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は2.9%¹増加しました。

2012年度上半期の純利益グループ帰属分は2012年度上半期の5億4,500万ユーロに対し、5億1,400万ユーロとなりました。尚、2012年度上半期にはBES Vidaの持分の BESへの売却益2,800万ユーロが含まれています。

クレディ・アグリコル・アシュアランスは引き続きフランス経済に金融サービスを提供し、2013年度上半期には14億ユーロの革新的な資金融資を含む40億ユーロを投資しました。

¹ 2012年度の数値は2012年度第2四半期にBESに売却されたBES Vidaを修正後。

4. 専門金融サービス(SPECIALISED FINANCIAL SERVICES)

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2	H1-13	Change H1/H1
Revenues	826	(6.5%)	1,651	(8.5%)
Operating expenses	(384)	+0.1%	(770)	(3.0%)
Gross operating income	442	(11.6%)	881	(12.8%)
Cost of risk	(386)	(13.4%)	(816)	(23.7%)
Operating income	56	+3.1%	65	nm
Equity affiliates	8	+38.9%	14	+40.8%
Income before tax	64	+6.3%	79	nm
Tax	(37)	+10.1%	(52)	+42.4%
Net income	27	+1.5%	27	nm
Non-controlling interests	(20)	(32.1%)	(40)	(64.9%)
Net income Group share	47	(15.9%)	67	x2.4

専門金融サービス部門はここ数四半期間に亘り事業適応計画による影響を受けた後、2012年度上半期にはプラスに転じ、主要なビジネス指標(収益、信用残高)は安定してきています。

2013年度第2四半期と上半期の純利益グループ帰属分は、2012年度第2四半期の+5,600万ユーロに対し、それぞれ+4,700万ユーロ、+6,700万ユーロでした。取引高は事業適応計画に従って減少しています。2013年度第2四半期の収益は前年同期比6.5%減少し、上半期は前年同期比8.5%減少しました。さらに、費用削減に対する努力が継続されました。その結果費用は、2013年度第2四半期は前年同期比横ばい、2013年度上半期は前年同期比3.0%の減少となりました。

リスク関連費用は主にアゴス(Agos Ducato)での費用削減を反映して、2013年度第2四半期は13.4%減、上半期は23.7%減と大幅に減少しました。

消費者金融では、この数四半期にわたり事業適応計画に沿って事業活動を計画的に縮小してきましたが、事業活動と収益は安定し始めました。その結果CACFの連結ベースの消費者信用残高は前年同期比で6.4%減少しましたが、2013年度第2四半期は前年同期比僅かに1.2%の減少に留まりました。2013年6月30日現在の同残高は、2013年3月31日時点の471億ユーロ、2012年6月30日時点の497億ユーロに対し、465億ユーロとなりました。アゴス・デュカトの消費者信用残高は意図的に抑えられ、1年間で19億ユーロ減少しました。2013年6月30日現在の管理資産は723億ユーロでした。上半期の地理的な内訳はこれまでと同様で、フランス38%、イタリア34%、その他が28%でした。

2013年度第2四半期のCACFの収益は、6億9,300万ユーロとなり、2013年度第1四半期とほぼ同様でした。事業適応計画により、2013年度第2四半期の収益は前年同期比7.4%減少、2013年度上半期は前年同期比9.4%減少しました。営業費用は引き続き抑えられ、2012年度上半期比2.5%減少しました。イタリア以外では、リスク関連費用は抑えられ、2013年度第2四半期はアゴスを除いたCACFでは110ベース・ポイントとなりました(年率)。アゴスでは、2012年に追加引当金が計上された後、リスク関連費用は大幅に減少し、2013年度第1四半期の2億3,200万ユーロに対し、2013年度第2四半期は2億2,400万ユーロとなりました。上半期のリスク関連費用は4億5,600万ユーロでした。この減少は、2012年3月

以降のガバナンスとリスク管理における子会社の実質的な努力によるものです。

2013年度上半期のCACFの純利益グループ帰属分は+4,100万ユーロでした。

リース・ファイナンスとファクタリングの業績結果は、2011年末以降当部門の事業が事業適応計画に沿って進められてきたことを反映しています。全体的な取引高の減少は、一部は利ざやが高かったことと費用が厳格に抑えられたことで相殺されました。2013年度6月30日現在の**リース・ファイナンス**の残高は、2012年6月30日時点の175億ユーロに対し、162億ユーロでした。**ファクタリング**では、2013年度上半期のファクタリング取引量は、海外のオペレーションに牽引されて前年同期比2.4%増の148億ユーロとなりました。その結果、両セグメントからの純利益グループ帰属分への寄与は2012年と比較して安定し、第2四半期が+1,500万ユーロ、上半期が+2,600万ユーロに達しました。

5. 法人営業及び投資銀行(CA-CIB)

2012年の1年間はCA-CIBのビジネス・モデルの転換とレバレッジ・リスク軽減のために注力しましたが、2013年上半期の業績結果はCA-CIBの新しい組織を反映したものになっています。これにより、CA-CIBは主要顧客のポートフォリオと、当社の優れた分野に集中した緊密な地理的ネットワークに改めて焦点をあてた「デット・ハウス」に進化しつつあります。CA-CIBのCLSAの残存持分80.1%の売却は2013年7月31日に完了しました。2012年7月の19.9%持分の売却を含め、また台湾のオペレーションを除き、売却価額は11億5,200万ユーロでした。この影響額は2013年度第3四半期に計上される予定です。

注：2012年財務諸表はIFRS第5号に基づくシュブルーとCLSAの計上、CIBの発行スプレッドをコーポレート・センターへ再分類調整後。

継続事業

(in millions of euros)	Q2-13*	Change Q2*/Q2*	H1-13*	Change H1*/H1*
Revenues	1,039	+3.6%	2,046	(10.6%)
- of which DVA	(26)	na	(39)	na
- of which loan hedges	(10)	nm	15	(81.4%)
Restated revenues*	1,075	+10.7%	2,070	(9.0%)
Operating expenses	(618)	(1.6%)	(1,245)	(4.2%)
Gross operating income	457	+33.2%	825	(15.5%)
Cost of risk	(92)	+7.7%	(187)	+60.3%
Operating income	365	+41.6%	638	(25.7%)
Equity affiliates	35	(12.1%)	69	(13.6%)
Net income on other assets	3	(75.0%)	3	(78.6%)
Income before tax	403	(30.3%)	710	(25.3%)
Tax	(113)	+9.1%	(191)	(30.6%)
Net income from discontinued activities	(7)	ns	(4)	nm
Net income	283	+37.7%	516	(23.7%)
Non-controlling interests	6	+17.4%	12	(25.9%)
Net income Group share	277	+38.3%	504	(23.6%)
Restated Net income Group share *	254	+38.1%	492	(21.5%)

* 2012年度の数値はシュブルーとCLSA、事業適応計画の影響を除く。ローン・ヘッジとCVA/DVA Day1とDVA runningを調整後。

2013年度第2四半期の継続事業の収益は、2012年度第2四半期比3.6%増の10億3,900万ユーロでした。ローン・ヘッジとDVA runningを調整後の収益は10.7%増の10億7,500万ユーロでした。これは資本市場部門が低迷した2012年度第2四半期と比較して、同部門の事業活動が堅調に伸びたことを反映しています。CA-CIBは、競争力のある地位を確立しましたが、それは好評価を受けている得意分野での専門知識によって築かれたものです。商業銀行部門では、CA-CIBはシンジケーション部門においてリー

ダー的地位を維持し、EMEA圏と西ヨーロッパ圏で第2位となりました¹。同様に、CA-CIBは法人向けローンのシンジケーションでもEMEA圏で第2位となりました¹。資本市場及び投資銀行部門では、担保付ジャンボ債発行で世界第1位¹、欧州ABCP証券化の主幹事で第1位を維持しました。

当期は、人件費削減に伴い費用が1.6%減少しました。非継続事業を含めた場合、費用は6.1%減少しました。リスク関連費用は2012年度第2四半期比8.3%増の9,200万ユーロでしたが、2013年度第1四半期比では横ばいとなりました。全体では、継続事業の純利益グループ帰属分は2012年度第2四半期比38.1%増の2億5,400万ユーロで、ローン・ヘッジとDVAを調整後は2億7,700万ユーロとなりました。

ローン・ヘッジとDVA runningを調整後の2013年度上半期の収益は、資本市場部門の事業活動が上昇傾向にあった2012年度上半期比9.0%減の20億7,000万ユーロにとどまりましたが、費用については前年同期比4.2%減少しました。リスク関連費用は、極めて低く抑えられた2012年度上半期比60.3%増加しました。継続事業の純利益グループ帰属分は、IFRS第13号(CVA/DVA)の初めての適用、DVA runningとローン・ヘッジによる影響を調整後、2012年度上半期比23.6%減の5億200万ユーロとなりました(シュブルー/CLSAと事業適応計画による影響額を修正後)。

ファイナンス事業 (Financing activities)

(in millions of euros)	Q2-13	Q2-13*	Change Q2*/Q2*	H1-13	H1-13*	Change H1*/H1*
Revenues	515	525	(0.3 %)	1,018	1,003	(7.3%)
Operating expenses	(217)	(217)	(7.0%)	(450)	(450)	(3.1%)
Gross operating income	298	308	+5.1%	568	553	(10.5%)
Cost of risk	(80)	(80)	(5.1%)	(171)	(171)	+53.4%
Operating income	218	228	+9.3%	397	382	(24.6%)
Equity affiliates	35	35	(11.3%)	69	69	(12.9%)
Net income on other assets	3	3	+233.3%	3	3	x2.7
Income before tax	256	266	+6.8%	469	454	(22.7%)
Tax	(67)	(71)	(11.0%)	(117)	(112)	(34.0%)
Net income	189	195	+15.0%	352	342	(18.1%)
Non-controlling interests	4	4	+18.4%	7	7	(21.3%)
Net income Group share	185	191	+15.1%	345	335	(17.9%)

*ローン・ヘッジを調整後、2012年は事業適応計画の費用調整前。

2012年度中にポートフォリオと流動性を削減後、2013年度第2四半期のファイナンス事業は2012年度第2四半期と比較して堅調な事業展開を見せました。ストラクチャード・ファイナンスでは収益は3.6%増

¹ 出典: トムソン・ファイナンシャル

の2億8,600万ユーロに達しました。商業銀行部門の最近2四半期は2012年前半に比較して収益が低迷していましたが、今期の収益(2億3,900万ユーロ)は、ビジネスが徐々に回復してきていることを反映しています。ローン・ヘッジ(2013年度第2四半期のマイナス影響額1,000万ユーロ、2012年度第2四半期のプラスの影響額7,200万ユーロ)を調整後では、収益は2012年度第2四半期比でほぼ横ばいでした。また、資金調達を伴う貸出は引き続き減少し、2013年度第1四半期の890億ユーロと2012年度第2四半期の970億ユーロから、2013年度第2四半期には870億ユーロとなりました。

リスク関連費用は、2013年度第1四半期に増加しましたが当期は2012年度第2四半期比5.1%減と安定しました。ファイナンス事業のリスク関連費用は、前期の34ベース・ポイント、同水準だった2012年度第2四半期に対して残高の29ベース・ポイントとなりました。

全体では、2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は1億8,500万ユーロでした。調整後は前年度第2四半期比15.1%増の1億9,100万ユーロとなりました。

資本市場及び投資銀行部門 (Capital markets and investment banking)

(in millions of euros)	Q2-13	Q2-13*	Change Q2*/Q2*	H1-13	H1-13*	Change H1*/H1*
Revenues	524	550	+23.6%	1,028	1,067	(8.9%)
Operating expenses	(401)	(401)	+1.7%	(795)	(795)	(4.8%)
Gross operating income	123	149	x3.0	233	272	(24.3%)
Cost of risk	(12)	(12)	ns	(16)	(16)	x3.3
Income before tax	111	137	x2.3	217	256	(26.4%)
Tax	(33)	(42)	+75.4%	(61)	(80)	(17.0%)
Net income from discontinued activities	(7)	(7)	nm	(4)	(4)	nm
Net income	71	88	x2.5	152	172	(31.0%)
Non-controlling interests	2	2	(15.8%)	5	5	(6.7%)
Net income Group share	69	86	x2.5	147	167	(31.7%)

* 2012年はCVA/ DVA Day1、2013年度のDVA running調整後。シュブルー/CLSAと2012年の事業適応計画の影響を修正後。

2013年度第2四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益は、低水準だった2012年度第2四半期比で23.6%増、2013年度第1四半期比で6.4%増となりました。この増加は主に債券ビジネスが堅調だったことによるものです。長期間に亘り変動の激しいマーケット環境が続く中でも債券発行額は高水準を維持し、また特に発行市場における投資銀行ビジネスが堅調でした。

2013年6月30日現在の最大損失予想額 (VaR) は1,500万ユーロ、当期中の平均VaRは1,200万ユーロで、マーケット・リスクは引き続き低い水準となりました。

非継続事業 (Discontinuing operations)

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2*	H1-13	Change H1/H1*
Revenues	49	+2.8%	103	+52.2%
Operating expenses	(43)	(43.7%)	(86)	(45.4%)
Gross operating income	6	(119.0%)	17	(118.9%)
Cost of risk	(11)	(74.9%)	(29)	(46.8%)
Income before tax	(5)	(92.6%)	(12)	(91.4%)
Tax	1	(95.0%)	4	(90.8%)
Net income	(4)	(91.6%)	(8)	(91.7%)
Non-controlling interests	(1)	(86.7%)	(3)	(85.0%)
Net income Group share	(3)	(92.7%)	(5)	(93.6%)

* 2012年7月1日以降のCIBの再編成を考慮に入れ、また事業適応計画の影響を修正後。

2013年度第2四半期の非継続事業の純利益グループ帰属分はごく僅かとなりました。2013年度第1四半期の-200万ユーロに対し当期は-300万ユーロでした。

6. コーポレート・センター(CORPORATE CENTRE)

(in millions of euros)	Q2-13	Change Q2/Q2*	H1-13	Change H1/H1*
Revenues	(376)	+0.3%	(1,254)	nm
Operating expenses	(217)	+1.2%	(432)	(1.8%)
Gross operating income	(593)	+0.6%	(1,686)	x3.8
Cost of risk	1	nm	66	nm
Operating income	(592)	(2.7%)	(1,620)	x3.5
Equity affiliates	(23)	(6.9%)	(65)	+26.5%
Net income on other assets	(2)	nm	(4)	(7.0%)
Income before tax	(617)	(2.3%)	(1,689)	x3.3
Tax	195	nm	585	nm
Net income	(422)	(31.8%)	(1,104)	+87.0%
Non-controlling interests	33	(22.3%)	84	(6.1%)
Net income Group share	(455)	(31.2%)	(1,188)	+74.7%

* 2012年度の業績結果は、コーポレート・センターへのCIBの発行スプレッドを再分類調整後。またコンプレックス・デリバティブの一部の評価変更が含まれています。

2013年度第2四半期のコーポレート・センターの収益は2012年度第2四半期の-3億7,400万ユーロに対し、-3億7,600万ユーロでした。これにはCA-CIBの既存社債の再評価とUL保険契約の再評価(2012年度第2四半期は3億2,800万ユーロに相当)による6,800万ユーロの収益が含まれています。

尚、2012年度第2四半期の収益にはインテサ・サンパオロの持分減損4億2,700万ユーロが含まれていること、2012年度第1四半期の収益にはハイブリッド債買戻しによる8億6,400万ユーロのプラスの影響額が含まれています。

ハイブリッド債の買戻しの影響を調整後、ポートフォリオ売却益と高配当による恩恵を受けた2012年度上半期の-8億7,300万ユーロに対して、2013年度上半期のコーポレート・センターの収益は-12億5,400万ユーロとなりました。

営業費用は、2012年度第2四半期比1.2%増加しました。新規課税の影響を除いた場合、2013年度第2四半期の営業費用は0.7%の減少になります。

2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は-4億5,500万ユーロ(既存社債の再評価の影響を除いた場合-5億100万ユーロ)で、2013年度上半期は-11億8,800万ユーロ(既存社債の再評価の影響を除いた場合-10億200万ユーロ)でした。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2013年6月30日現在の当グループの顧客ローン残高は7,230億ユーロでした。地域銀行、LCLと国際リテール・バンキングの子会社のオン・バランスシート預金は同期間中に6.2%増加し、4,710億ユーロとなりました。資金調達では、バランスシートの顧客預かり資産が6,460億ユーロに達しました。

<i>(in millions of euros)</i>	Q2-13	Change Q2/Q2	H1-13	Change H1/H1
Revenues	8,165	+1.1%	15,799	(6.8%)
Operating expenses	(4,979)	(1.1%)	(9,905)	(1.3%)
Gross operating income	3,186	4.8%	5,894	(14.9%)
Cost of risk	(980)	(3.8%)	(2,159)	(6.2%)
Operating income	2,206	+9.2%	3,735	(19.2%)
Equity affiliates	5	(94.5%)	34	(75.6%)
Net income on other assets	2	(95.0%)	23	(41.5%)
Change in value of goodwill	(22)	x3.5	(22)	x3.6
Income before tax	2,191	+2.7%	3,770	(21.4%)
Tax	(717)	(17.2%)	(1,198)	(31.3%)
Net income (after tax) from discontinued activities	(4)	nm	2	nm
Net income	1,470	+70.4%	2,574	+47.9%
Net income Group share	1,385	+71.5%	2,410	+44.2%

* 2012年度第2四半期は、IFRS第5号に従ったエンポリキ、シュブルー、CLSAの再分類を調整後と、一部のコンプレックス・デリバティブの評価変更を含む。

2013年度第2四半期のクレディ・アグリコル・グループの**収益**は、2012年度第2四半期比1.1%増、2013年度上半期比7.0%増の81億6,500万ユーロとなりました。この増加傾向はグループ中核事業であるリテール・バンキングと資産管理部門の盤石性を反映しています。また事業運営とは直接関係のない特殊要因(既存社債の再評価、DVA、ローン・ヘッジ。2012年度第2四半期はインテサ・サンパオロの持分減損の4億2,700万ユーロ)の影響も反映しています。

営業費用では新規課税と社会費用の影響があるにもかかわらず、2013年第2四半期が前年同期比1.1%減少、2013年度上半期が前年同期比1.3%減少しました。この改善は、費用削減とMUSTプログラムによって生じた節減効果を反映しています。

リスク関連費用は抑えられて、2012年度第2四半期比3.8%減少しました。2013年度第2四半期のリスク関連費用は、2012年第2四半期残高の61ベース・ポイントに対し、46ベース・ポイントとなりました。

2013年度第2四半期の**非継続事業の純利益**は-400万ユーロとごく僅かでした。尚、2012年度第2四半期には、エンポリキ、CLSA、CAシュブルーの営業損益が合計で-4億400万ユーロ含まれています。

全体では、2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、2012年度第2四半期の8億800万ユーロ

ロに対し、13億8,500万ユーロとなりました。既存社債の再評価、DVA、ローン・ヘッジを除いた場合、2013年度第2四半期の純利益グループ帰属分は、2012年度第2四半期の9億7,400万ユーロに対し、13億6,300万ユーロになりました。尚2012年度第2四半期は、インテサ・サンパオロの持分減損が調整されています。純利益グループ帰属分の増加のほとんどは、ギリシャ関連事業の営業損失の消滅によるもので、これは非継続事業または売却目的のオペレーションの非継続事業の純利益に認識されています。

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the second quarter of 2013 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.creditagricole.com/Finance-and-Shareholders under "Financial information" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation.

Investor relations +33 (0) 1 43 23 04 31

Denis Kleiber	+ 33 (0) 1 43 23 26 78	Laurence Gascon	+ 33 (-0) 1 43 23 38 63
Nathalie Auzenat	+ 33 (0) 1 57 72 37 81	Fabienne Heureux	+ 33 (0) 1 43 23 06 38
Sébastien Chavane	+ 33 (0) 1 57 72 23 46	Marie-Agnès Huguenin	+ 33 (0) 1 43 23 15 99

Disclaimer

The figures presented for the six-month period ending 30 June 2013 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. The figures presented have been drawn up in accordance with IAS 34, "Interim Financial Reporting".

Review procedures on the condensed interim consolidated financial statements have been conducted. The statutory auditors' review report is being issued.

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10). This information was developed from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly in calculating market value and asset depreciation.

Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.